

～「(仮)みんなのひろば」検討ワークショップ第4回を開催しました～

町では、検討を進めている広場「(仮)みんなのひろば」について、整備イメージを考えるワークショップを行っています。

今回はワークショップ第4回を開催いたしましたのでお知らせします。

第4回ワークショップ結果概要

第4回ワークショップの内容

◎開催日時：令和5年11月6日（月） 18：00～20：00

◎会場：大槌町文化交流センターおしゃっち

◎テーマ：広場のカタチを決めよう！

10名の方にご参加いただきました。

①これまでに出た意見やアイデアを基に、事務局で作成したコンセプトや基本方針、空間構成の異なるゾーニング3案を見ながら、**どのような空間が町にとって最も大切か、親しまれる広場になるか**等を具体的な理由と合わせて考えました。

②出された意見を基に、**広場を構成する空間の方向性や割合**について話し合いました。

ワークショップの結果 ※意見の抜粋



ワークショップの様子

どのような空間が町にとって大切か

- ・町内外の人へ、大槌町のシンボルが視覚的にわかる・知ることができるような空間。
- ・子どもがのびのびと遊べる環境を考えると、物を置きすぎない広場空間が大切である。
- ・他の公園にはない「自然・自由遊び主体」の空間。

広場を構成する空間の方向性や割合について

- ・いろいろなものが混在しないシンプルな形が良い。メインを決めて「大槌らしさ」を出すべきである。
- ・大槌の子どもたちのことを考えると、自然の中で考えて遊べる場を大きく整備すべきである。
- ・親の意見としては、遊具がたくさんある、または大きい遊具がある方が安心である。
- ・水遊び、土・泥遊びができる空間は取り入れたいが、規模は大きくなくても良い。
- ・昇り降りできる、ひょうたん島の形の山などを取り入れたい。
- ・雨の日の利用や遠足での利用などを考えると、大きな屋根空間があると良い。

まとめ

空間の方向性については、【自然・自由遊び主体型】の割合が望ましいという意見が比較的多く、子どもたちが「**考えながら体を使ってできる遊び**」などに特化した空間が求められていることが分かりました。

どのような空間が町にとって最も大切か、親しまれる広場になるか

- ・他の公園にはない**水・火・木・土**などを使った「**自然遊び・自由遊び**」を楽しむことができ、大槌ならではの自然や大槌らしさを体感できる空間。

広場を構成する空間の方向性や割合について

- ・小さな子どもも遊べるように最低限の遊具や健康遊具は配置しつつ、**自由な遊びができる空間を広くとる**。昇り降りができる築山などを配置する。
- ・水遊びや土・泥遊び空間は広場には取り入れるが、小規模でも良い。
- ・緑地については、**休憩や遊びに利用する緑地の配置を検討**し、管理面で負担にならない程度の空間を確保する。
- ・遊具については、子どもから高校生などに非常に人気のあった**ドイツ遊具**、または、**考えながら体と頭を使って遊ぶことができる遊具**などを検討する。

どのような空間が町にとって最も大切か、親しまれる広場になるか

「**近隣地域の公園とは一味違った、自然遊び・自由な遊びに特化した空間を有する広場**
「町内外の人が、大槌のシンボル・大槌らしい部分を感じられる施設や風景を取り入れた空間」